PRESS RELEASE

2016年7月8日(金)

報道関係各位

パーク24株式会社

大多数が運転中のヒヤッと経験あり
ドライバーの8割は、自身が運転できるのは「75歳まで」と認識

パーク24株式会社（本社：東京都千代田区、社長：西川光一）は、ドライバー向け会員制サービス「タイムズクラブ」※の会員を対象に実施した、「運転中にヒヤッとした経験」についてのアンケート結果を発表いたします。

□■□

調査結果トピックス

① 9割以上が運転中にヒヤッとした経験あり

② 運転中のヒヤッとした経験は65%が「急な飛出し」

③ 自身の考える運転限度年齢は、75歳以下が8割

□■□

パーク24は、毎月9日に、クルマの運転や交通に関するアンケートの調査結果を発表しています。
今月の「運転中にヒヤッとした経験」についてのアンケート結果詳細は以下の通りです。

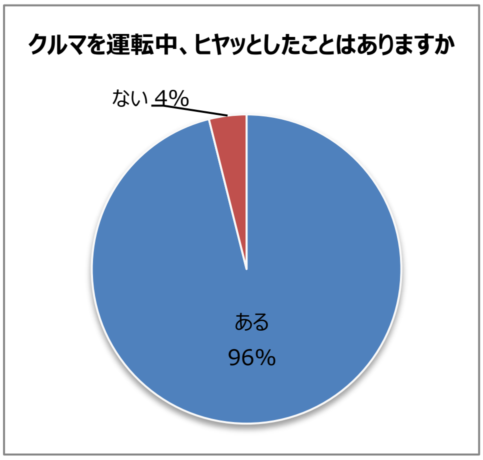
※入会金・年会費無料の会員制ポイントプログラム。タイムズ駐車場やタイムズカープラスの利用等でポイントがたまる他、会員限定サービス等を提供。会員数約573万人（2016年5月末現在）

■調査概要

調査対象	タイムズクラブ会員 （2014年12月7日以降に入会し、直近でタイムズ駐車場・タイムズカープラス・タイムズカーレンタルを利用された方）
調査方法	非公開型インターネットアンケート
調査期間	2015年12月7日～12月13日
有効回答者数	8,021名

① 9割以上が運転中にヒヤッとした経験あり

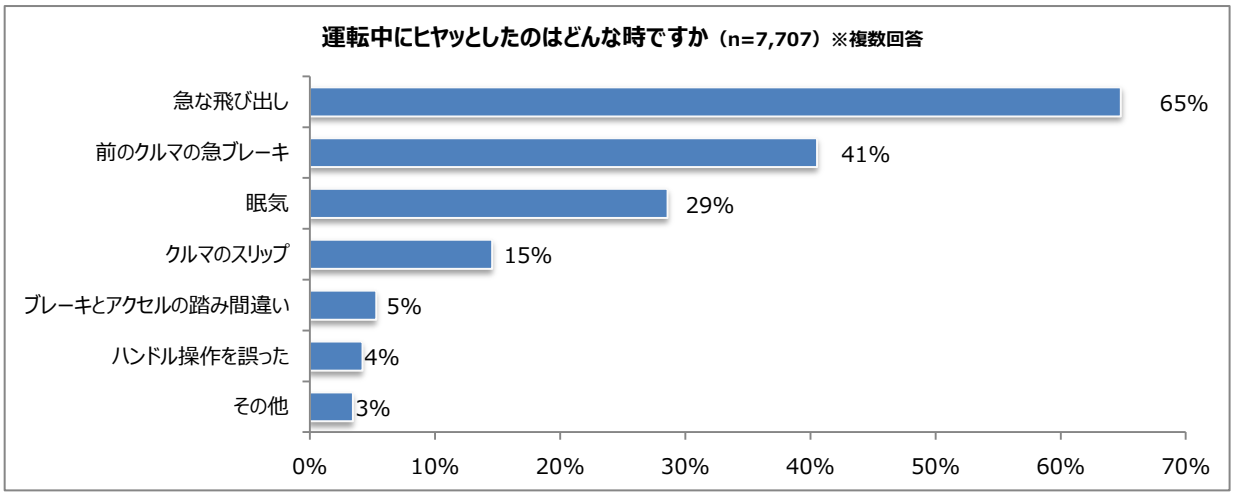
クルマを運転中にヒヤッとした経験がある人が96%に上ることがわかりました。
年代、性別、居住地や運転頻度、免許取得年数でみても割合に大きな違いはなく、クルマを運転したことがあれば、何かしらヒヤッとした経験をしているようです。



※本リリースは国土交通記者会、自動車産業記者会に配布しております。

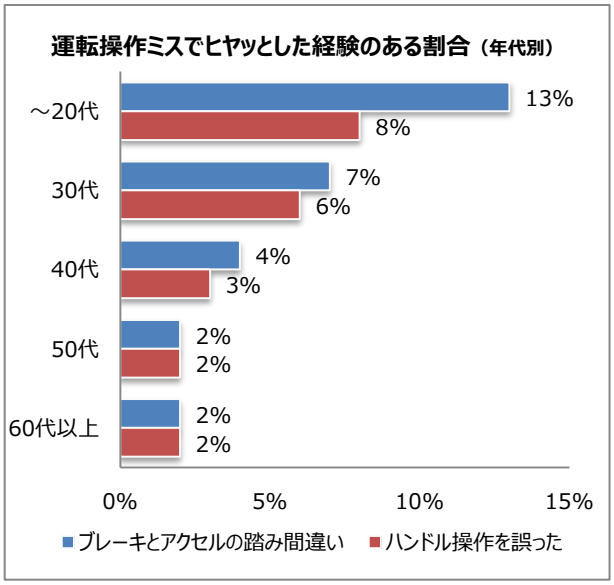
② 運転中のヒヤッとした経験は 65%が「急な飛出し」

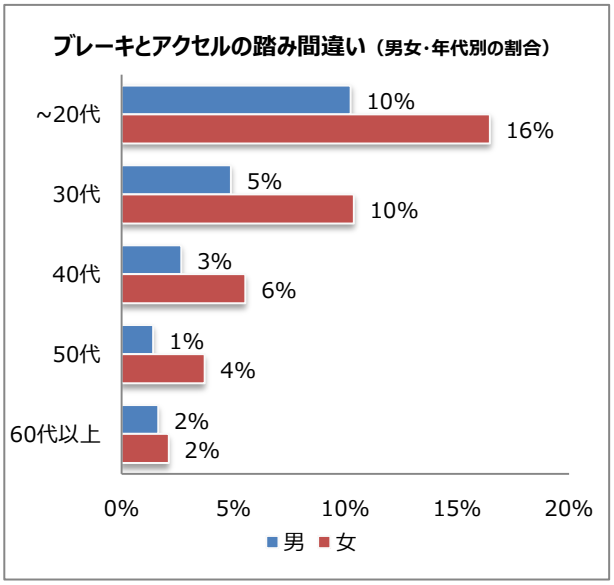
運転中にヒヤッとした経験では、「急な飛び出し」が 65%、次いで「前のクルマの急ブレーキ」が 41%となり、多くの人が他人の運転で危険を感じていることがわかりました。
一方で、自身の操作ミスでヒヤッとした経験では、29%が回答した「眠気」がトップとなり、以降、「クルマのスリップ」が 15%、「ブレーキとアクセルを間違えた」が 5%、「ハンドル操作を誤った」が 4%と続いています。
「クルマのスリップ」は、北海道、東北、北陸、甲信越など、雪が多く降る地域の人からの回答が多くみられました。



「ブレーキとアクセルの踏み間違い」と、「ハンドル操作ミス」でのヒヤッと経験は、20 代に多いことがわかりました。特に、最近ニュースで取り上げられることの多い「ブレーキとアクセルの踏み間違い」は、男性よりも女性に多く、20 代以下の女性では 16%にのぼりました。
警察庁の統計データでも、運転操作不適※が原因の事故は 33,845 件で、この内 20 代以下が 28%と高い割合となっており（平成 27 年度）、運転経験が浅いほど、運転操作ミスをする可能性が高いようです。

※運転操作不適：アクセルとブレーキの踏み間違い、ハンドル操作の誤りなど

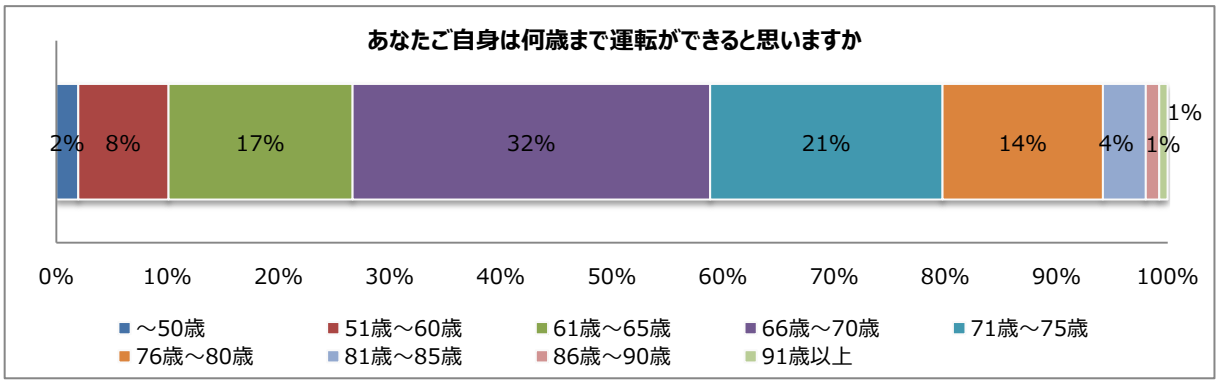




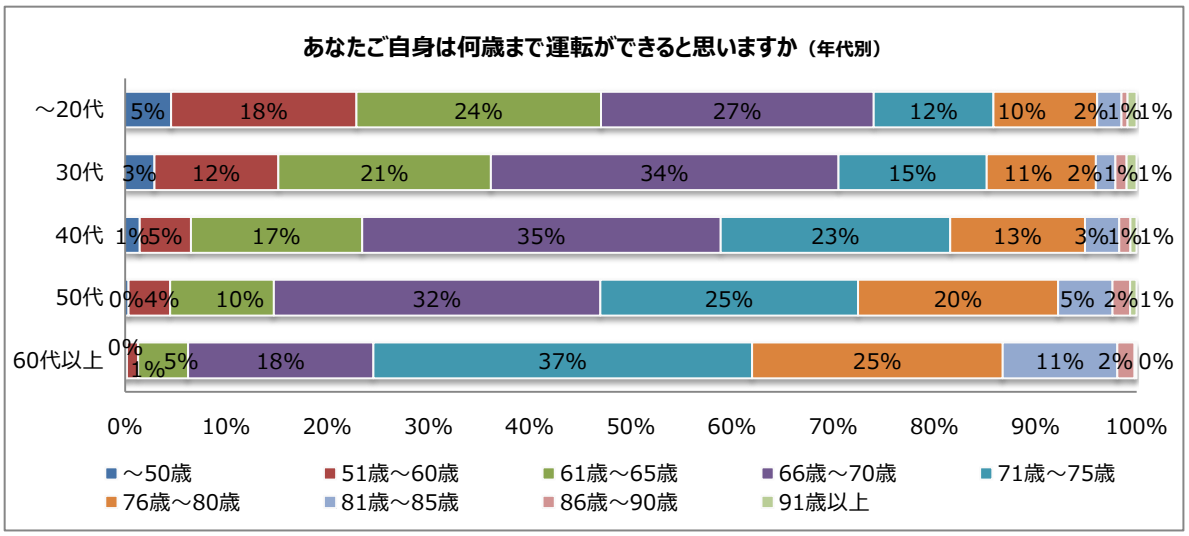
※本リリースは国土交通記者会、自動車産業記者会に配布しております。

③ 自身の考える運転限度年齢は、75 歳以下が 8 割

「自身で何歳まで運転ができると思うか」を聞いたところ、8 割が「75 歳以下」と回答しました。一番多かった年齢層は「66 歳～70 歳」の 32%、次いで「71 歳～75 歳」が 21%、「61 歳～65 歳」が 17%となりました。



回答者の年代別でみると、20 代以下は、「65 歳まで」が 47%と半数近くなっており、年齢が若いと、歳を重ねた自分自身をイメージしにくいことから運転の限界年齢も低くなっているようです。
60 代以上では、「81 歳以上」でも運転できると回答した人が 1 割を超えており、他の年代よりも高い割合となっています。
なお、警察庁のデータでは、平成27 年度中の申請による運転免許の取り消し件数は約285,000 件で、そのうちの 8 割が 70 歳以上となっています。



これまでは運転中にヒヤッとした経験がなかったとしても、この先もないとは限りません。事故を起こすことのないよう危険を予測し、相手の立場に立った思いやりのある運転をすることが大切です。
また、路上駐車はドライバーの死角を作り、65%の人がヒヤッとした「急な飛び出し」の原因になり、大きな事故につながる可能性もあります。交通事故が 1 件でも減るように、運転時はもちろんのこと、駐車についても意識したいものです。

※本リリースは国土交通記者会、自動車産業記者会に配布しております。